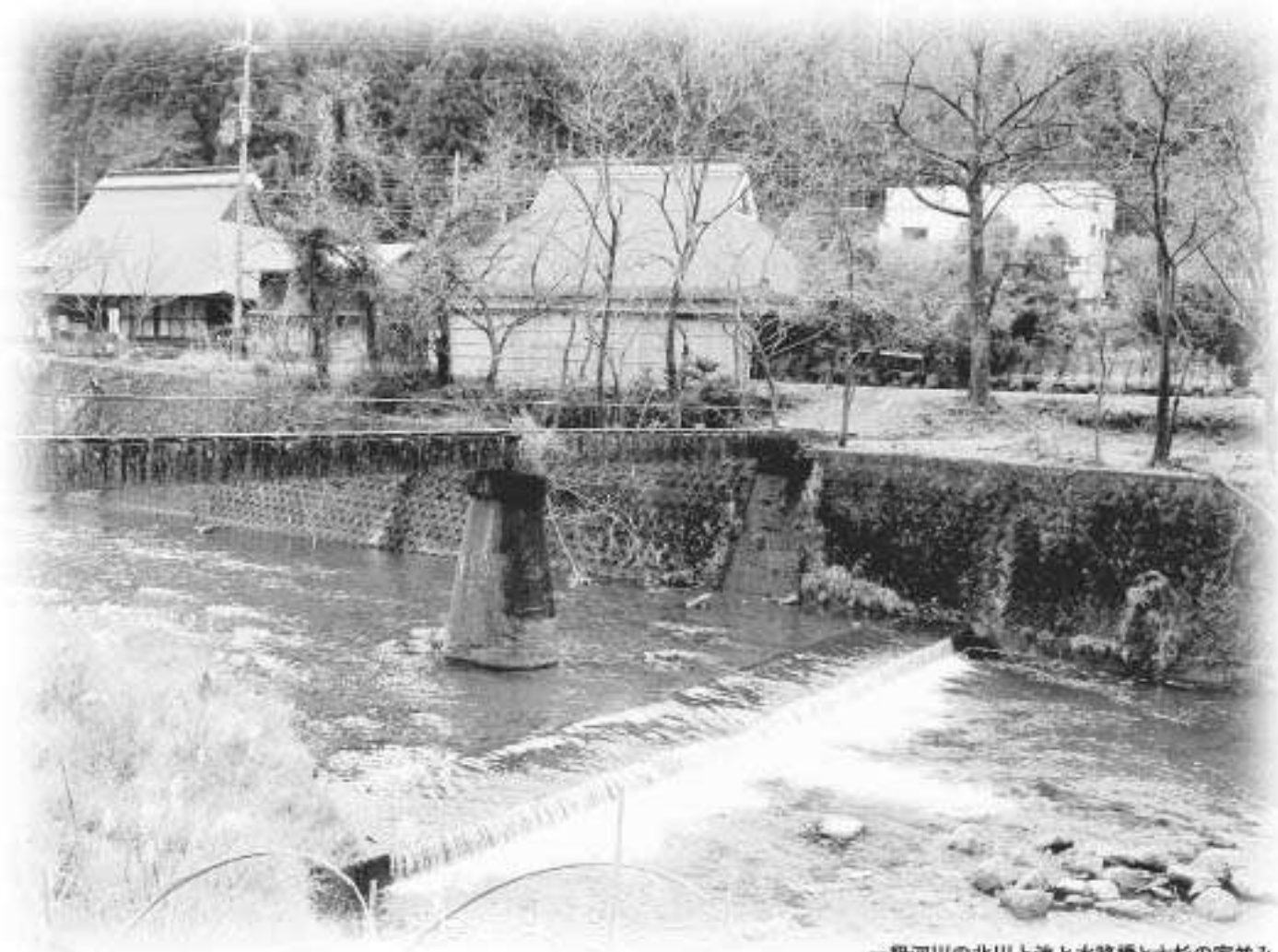


平成21年2月1日発行

鯖街道 熊川宿

若狭熊川宿まちづくり特別委員会
福井県三方上中郡若狭町熊川
TEL/FAX (0770) 62-0330
熊川宿ホームページ <http://kumagawa-juku.com>



一級河川の北川上流と水路橋と大杉の家並み

熊川宿防災まちづくり計画

熊川宿は重伝建選定12年を過ぎ、景観整備や家屋の修理修景が行われてきました。歴史的な町並みを求めて、今では年間40万人の方が訪れるようになりました。しかし、伝統的な木造の家々が連なる町並みで、平日の昼間は観光客と高齢者が多く、防災面等で一抹の不安を抱えています。

そこで若狭町は、住民と行政が協働で、防災組織の確立と防災設備の整備を進める「伝建地区若狭町熊川宿の防災まちづくり計画」を策定しています。住民代表によるワークショップで、住民自らが自分たちの町並みを歩き、調べ感じたことを提議して、鈴木有先生をはじめとする有識者や専門家の先生方のご指導をいただきながら、幾度も会議と現地調査や検討を重ねて、若狭町文化財室がまとめ役となって進められています。

これによって住民の防災意識を高め、歴史的景観や環境資源を守りながら、住民にとっても観光客にとっても安全で安心な熊川宿を目指していきます。いざというとき、先ずは我が身、次に家族、隣近所、区民全体、そして観光客の安全確保をも含めた実効性のある防災計画が確立されるように切に望みます。

目次

熊川宿防災まちづくり計画	1
寄稿文	2
寄稿文・事業計画・話題	3
熊川いっぶく時代村	4
事業報告・話題・活動報告	5
活動報告・名所紹介	6

先進の取組みが実る『熊川宿防災まちづくり計画』

鈴木 有

(金沢工業大学名誉教授・秋田県立大学名誉教授
伝建地区若狭町熊川宿の防災まちづくり計画策定委員会委員)

間もなく「熊川宿防災まちづくり計画」が出来上がります。それは、全国に83ある伝建地区の中で、先進の画期的な取り組みが実った成果だと私は評価します。

伝建としての防災計画は、かなりの地区で作られてきましたが、どれも「防火」計画に偏っていました。そしてたいは、行政が主導して作るため、防災倉庫の建設や防火水槽・消火器具の設置などハードの整備に終わり、その後の継続や展開がほとんどみられません。

そうした中で最近注目されているのが、長野県塩尻市の取り組みです。著名な奈良井宿を対象にした防災計画づくりが進行中で、防火に加えて耐震も、山あいにあるため土砂災害までを含めて、防災の研究者グループが関わり、現代の先端技術を用いて、地区を实地に調査研究し、立案しています。

けれども、ここでも行政主導は変わらないので、地区の住民にまで施策が浸透し、実効あるものになるかどうかは、これからの課題です。

こうした全国伝建地

区に状況に照らして、熊川宿の防災計画が先進である理由を述べましよう。

第一に、火災・地震・積雪・風雨・斜面崩壊を対象にして、まさに一総合防災に相応しい計画」を考えていること。第二に、近年この地区を形成してきた歴史を受け継ぎ、「まちづくりの一環」として取り組んだこと。第三に、まちづくりなら当然の「住民と行政の協働」を基にして創ったこと。第四に、わが家や自分たちがすぐ出来ることから始めよう（自助）と「共助」を基礎に、行政がしっかり支えよう（公助）と協力関係を確認していること。第五に、非常時の備えを普段からやれる工夫があること。第六に、観光客への対処や他の伝建地区との連携を考えた「開かれた計画」であること。



防災ワークショップ(まち歩き調査)

五回のワークショップには、地区の四分の一もの世帯から参加がありました。この計画づくりをきっかけに、今年、熊川地区に初めて自主防災組織が結成され、独自の取り組みが始まると聞いています。

順調に歩めば、行政

私が熊川宿へ行くわけ

藤田 英夫 (熊川宿ファンクラブ会員
若狭町出身・明石市在住)

私が熊川宿に行く理由は二つあります。その一つは、私の父は、約30年前熊川で定年を迎えました。生活に少し余裕ができたある日、父との思い出を探して各方面を見て歩きました。その旅で熊川を訪れたとき、長年の日々が過ぎ、父の元職場は別の建物が建っていました。そして、その町並みは綺麗に整備され、すばらしいものになっていました。

月日がたち、風景は変化していきます。この風景もいずれは変わっていくのでしよう。そのために、その景色をカメラで切り取っておくことにしました。いつも同じ場所から同じ写真を撮っています。少しずつ変わっていく様子を記録するために。そして、もう一つの理由は、「熊

川宿」と言う名前のお酒です。ある料理屋さんでそのお酒をいただきました。その飲み口は今までに経験したことのない口当たりで、高級ワインを思わせるものでした。このお酒、熊川宿を引き立てる前川用水の水を利用していた熊川宿にあった造り酒屋を伝承しているものです。その熊川宿をイメージして造られたお酒、発祥の元となった地で買求めるべきでしょう。



雪の熊川宿(藤田英夫氏撮影)

藤田英夫氏のブログ(HABUのひとりごと)
<http://blogs.dion.ne.jp/rine/>

が黒子で支え、地区の皆さんが主人公で、普段の暮らしの中に備えが溶け込んだ、他の地区には見られない防災のまちづくりが進むのではないかと私は大いに期待しています。

二月一日には、地区の皆さんにこの計画づくりを報告し、これからの取り組み方を一緒に考える地区集会所が持たれます。必ず来たる諸々の災害を乗り越えて、熊川宿の美しいまちとここでの穏やかな暮らしが末永く続くようにぜひ語り合いたいです。熊川にご縁をいただいた私も、一緒に考え、応援を続けたいと願っております。

話題 TOPIX 1

まちづくり活動優秀賞受賞

(社)あしたの福井県を創る協会

「福井県あしたのまち・くらしづくり活動賞」募集において、当委員会が優秀賞(最高賞)を受賞しました。

11月24日、福井市内で開かれた「元気なふるさとづくり県民のつどい」で表彰式、講演会、分科会がありました。

講演では、NPO法人環境市民代表理事の秋本育生氏が「地球温暖化を防ぐ地域からの取り組み」と題して、北政との違いを例にあげて話されました。

第4分科会では「熊川宿のまちづくり」について事例発表を行いました。



また、財あしたの日本を創る協会より「あしたのまち・くらしづくり活動賞」で振興奨励賞を受賞しました。

銚子大橋開通(興道 河内・熊川線)



11月30日、銚子大橋が開通し、渡り初めが行われました。真っ赤なアーチ橋が大自然の中、ひときり映えています。

この橋の完成により、平成22年度からいよいよ河内川ダム本体の工事が始まる予定です。

ホーホーはたる来い

藤本 正夫

「あつちの水は苦いぞー、こつちの水は甘いぞー」昔は中条橋付近や前川によく飛んでいたなあ。「家の周りもいっぱい飛んでいたぞー」それなら蛭を飛ばそう！

昔の様に蛭が乱舞して子供たちが追つて姿を取り戻そう！熊川宿に夜訪れる人々から歓喜の声を！を合言葉に平成19年に熊川地区の五十、六十歳代七名で、「熊川宿はたる生息研究会」を発足しました。勉強会には福井工業大学の草桶秀夫教授のご指導を仰ぎ、先進地の視察や人工飼育の方法等素人集団の悪戦苦闘が始まりました。蛭を捕獲して卵から幼虫の飼育まで会員一丸となつて行いました。飼育には熊川小学校の皆さんにも協力していただきました。餌になるカワニナの捕獲の際など

は、大人が童心に返り汗を流しながら無心になっている様はコッケイで、私自身苦笑いの連続でしたが、得られる事も多く貴重な体験でした。

昔飛び交った小川や道、田畑は時の流れに沿って変わりつつある昨今、生息条件は皆無になり、人が自然界の変化に気が付くまでに、昆虫などは変化を察してその場所から居なくなる。何か寂しい気もします。

その様な思いの中、町のエコグリインツーム推進事業の支援を受け、熊川地区の若者会「若塾塾」の協力を得て、旧熊川保育所裏に昨秋、蛭の生息条件を満たすピオトープを



造り、幼虫を放流する事が出来ました。万感の思いがします。

家屋等の修復は素晴らしい匠の技で戻す事が可能ですが、自然環境は保護・保全が不可欠で、戻すまでには至りませんが、守るにはパブリックインボルブメントが必要です。

わが熊川には、平成の名水百選の前川、春には鮮やかな緑が芽吹く山々、昔ながらの家並み、素晴らしい環境が整っています。そんな熊川に宿泊して蛭が飛び交う夜の熊川宿を散策してもらおう。そして、「環境で観光の出来る宿場まち」としても訪れてもらえる様に。また、1ターンの希望者も増える事を願っております。

※ピオトープとは、生物群集の生息空間を示す言葉。蛭はラテン語とギリシャ語の造語で、「足(ひのち)の土(ground)の場所」。

※パブリックインボルブメントとは住民参加のこと。住民の意見聴取といった従来の住民参加にとどまらず、多様な住民意見を反映し、住民の視点を生かした政策を行うために、地域政策の仕組立案、意思決定において、行政と住民との意見交換、合意形成を行うこと。(Public Involvement: 英語)

（フーコウ会理事 藤本正夫氏より）

平成20年度
日本風景街道

支援事業計画

昨年度に引き続き、今年度も日本風景街道の支援を受けることができました。熊川宿では次の事業を計画し、さらなる文化の再興と地域の活性化を目指します。

- 一、町並み防災研修
防災活動取組み地域の視察
- 二、防災訓練の実施
高齢者を対象に初期消火訓練
- 三、宿場内の美化活動
花壇の整備や河川の美化活動
- 四、伝統芸能の後継者の育成
子ども用テキストの作成
- 五、消火器収納箱の製作
景観に配慮した収納箱の製作
- 六、宿泊施設運営研修
住民団体運営の宿泊施設の研修



短歌で

町並み散歩

幼日の雲の里と夢に見し

村の有志は飼育と誓ふ

「鯖街道歴史展示は宿場館」
子ども語り部無邪気に声上ぐ

宮崎洋美



第9回 熊川 いっぷく 時代村

とき：平成20年

10月12日

ところ：

鯖街道熊川宿一帯

(福井県三方上中郡若狭町熊川)

主催：熊川いっぷく時代村実行委員会

協会：曾我邊家 福福

協賛：鯖街道交流促進会議

後援：福井新聞社・FBC福井放送

熊川いっぷく時代村

4

晴天に恵まれ、大勢の方にお越しいただきました。
実行委員会が行ったアンケートの回答を編り交ぜて報告いたします。



打上げ花火の合図と山車の巡行で開幕！松本神社の例祭で子どもたちがお獅子を奉納しました。



孝子と七拍子 大八車レース

親子行のかがみ、孝子と七に因んだ「大八車レース」では10組の親子が力走！
新たに設けられた段差越えに熱い声援と拍手が湧いていました。



プリキの金魚レース

平成の名水百選となった前川での「プリキの金魚レース」は今年も大好評！
本降ステージでは、伝統芸能や子ども部が披露されました。



歴史的な町並みを可憐や虚無僧が歩き、バザーや野点のお茶会もありました。



上ノ町もこの人込み！大人気の餅つきや舞台囃人で賑わいました。



駕籠屋でござる in 熊川宿

時代村の名物レース「駕籠屋でござる」は、お盆に載せたボールを運びました。
毎年楽しみにして来られるお客さんや、顔見知りの人に出会いました。



下ノ町には朝市や蕎麦、あったかーい温泉饅頭のいっぷく処がありました。
特に「鮎組の屋台職人」や「人力車」には多くの人気が集まっていた。

話題 TOPIX 2

歴史環境講座 (若狭町)

島田敏男先生は、平成11年から3年間、文化庁文化財調査官としてお世話になり、現在、奈良文化財研究所平城宮跡発掘調査部遺構調査室長を務められています。

9月20日、「みんなで活かそう！文化財建造物」というテーマで講演され、時代の流れに沿って建物の保存対象が変わってきていることや、保存から活用することが求められていることなどが述べられました。



文化財ふれあいフォーラム

(若狭町)

若狭町は小浜市とともに、文化庁の「文化財総合的把握モデル事業」に選定されました。11月10日に開催された「文化財ふれあいフォーラム」では、西村幸夫先生をはじめとする学識経験者や住民団体代表者の講演・パネルディスカッションが行われ、両地域の文化財を見直し、保存・活用を進めていくため、3ヵ年の事業に向けた意見が交わされました。



10/14

文化庁 西山先生と語る会

六月に重伝建選定となった小浜西組地区の皆さんを迎えて、文化庁の西山和宏先生から全国の重伝建の現況や町並み保存についてお聞きしました。

先生は伝建への関わりや防災の考え方、伝建制度30年を迎えて町並み保存の次世代引継ぎが全国的な課題になっていることなどを述べられました。

一日目の研修では、宮本一男氏の語り部で、前川が流れる熊川宿の町並みを見学しました。

次に三方五湖の浦見川に移動し、山本和男氏が行方久兵衛の開削工事について詳しく解説されました。前川や浦見川は深い歴史と先人たちの大変な苦勞があつて今日の環境資源があるのだと思われました。続いて縄文博物館を見学しました。

懇親会では、てっせん踊りと熊川音頭が披露され、夕食を交えて交流を深めました。

二日目は、20年度総会と各地からの事例発表が行われました。

他地域のまちづくりの話も聞いて、違う観点からまちづくりを考える契機となりました。今後も文化、自然を大切にしながらまちづくりに参加していきたいと思われました。

*

*

平成20年度 堀割協議会

9月18日(木)・19日(金) 於若狭町



熊川宿防災まちづくり計画

経過報告 平成20年12月20日現在

〔基本方針〕

- 一、熊川宿まちづくりの実績を活かす
- 二、歴史の蓄積と自然環境の条件を活かす
- 三、住民と行政が手を携えて進める
- 四、計画から実践へ着実に進める
- 五、観光客に配慮し他地区との連携をめざす

〔計画策定の経緯〕

一、策定体制

「伝建地区若狭町熊川宿の防災まちづくり計画策定委員会」の設置

二、策定委員会

6月13日、8月1日、9月30日、10月31日、12月12日の5回開催

アンケート調査、ワークショップで抽出整理した課題・対策の審議、現地調査等を実施

三、防災ワークショップ

6月28日、7月5日、8月7日、10月17日、11月22日の5回開催

町歩き調査、課題の抽出・対策の検討、防災マップ・住民アクションプランの作成等を実施

活動報告(平成20年7月)

8/15

納涼盆踊り (熊山区・熊川宿伝建地保存会)

厳しい残暑の中、やぐらの組立てと児童館周りの草刈り作業を行いました。

盆踊りでは、流行踊り、江州音頭、てっせん踊り、熊川音頭と続きましたが、もつと多くの皆さんに踊っていただきたいと思われました。

屋台やゲームコーナーは里帰りの家族連れで賑わいました。



9/14

駕籠屋とつくる「今庄宿」

(熊川いつぶく時代村実行委員会)

今庄宿へ出向宣伝に行きました。当日は「街道浪漫・今庄宿」が開かれており、晴天にも恵まれ大勢の人出です。

熊川自衛消防団の協力で、子どもたちを駕籠に載せて約100mを何度も往復しました。熊川の駕籠屋は大変好評で盛り上がりを見せていました。





10/23

リコーダーとピアノのスタ

(若狭町・熊川宿おもてなしの会)

パレオ若狭での公演を前に、旧逸見勤兵衛家で江崎浩司さんと長久真実子さんのミニコンサートが開かれ、クラシックからジャズまで十数曲が演奏されました。リコーダーやサクソ、電子ピアノの調べは町家の佇まいに溶け込んで熊川の聴衆を魅了しました。



10/22

文書の里の会勉強会

「文芸より見た若狭」と題して、狂歌や川柳など文芸に関わる歴史上の人物をテーマに勉強会が開かれました。

尾張や三河を中心に、熊川にゆかりのある人物やNHK大河ドラマの登場人物を織り交ぜて、宮下市郎氏が詳しく解説され、しばし戦国の世の歴史浪漫に魅れました。



10/19

ビオトープ作庭

(熊川宿ほたる生態研究会)

同研究会では環境や虫の生態を研究して、虫が飛び交う里づくりを目指しています。

7月24日、自然や環境について関心を持ってほしいと熊川小学校へ虫の幼虫千匹をプレゼントしました。10月19日、熊川地区の若者の会「若鮎塾」の協力で、旧熊川保育所裏にビオトープを整備しました。12月15日、熊川小の児童たちと、ビオトープへ虫の幼虫を放流しました。



11/29

水紀行講座「とんぼの川」

(わかさWAKKAフォーラム・とんぼの川実行委員会)

小浜水産高校の小坂康之教諭が聞き手となって、山や川、水をテーマに講座が開かれました。

中村尚子さんは暮らしに密接に関わる前川の思い出を、河合恭江さんは熊川の歴史を語られました。抹茶と葛ようかんの休憩を挟んで、宮本重光さんからは区管理の山の経緯や現況を、岩本義雄さんは北川での鮎釣りの思い出などを話されました。自然を守り維持していくことの苦勞を感じました。



着手から35年余りをかけ、平成19年に竣工した岐阜県指斐川上流の徳山ダムへ研修に行きました。初めに資料室でダムの歴史としくみをビデオ鑑賞し、貯水容量が日本一を誇る雄大なダム本体を見学、徳山会館では水没した集落の写真やダム湖を見学しました。「自然を守るため湖周道路は作られていない」と説明がありました。岐阜市内で遅めの昼食を終えて、うだつの上がる美濃の町並みを自由散策しました。夕方近くとあつてか観光客はまばらで、静かで落ち着いた町並みを見学できました。帰り際には、和紙のオブジェが点灯され、優しい明かりが黄昏の町並みを演出していました。



11/7

徳山ダムと美濃研修

(熊川区ダム対策特別委員会 共催)

あとがき

地球温暖化の影響が現れているのか松木神社の紅葉は例年より二週間も遅めでした。この冬は暖冬かと思いきや、年明けから一転して雪景色となりました。今年度は自然保護や環境についての行事や講演会が多く開催され、熊川の環境についてもいろいろと考える機会があったように思います。

今年度も日本風景街道の支援をいただくことになり、防災関連の事業の他に、前川が流れ込む河内川の美化活動など幾つかの事業が計画されています。

また日頃、駐車場や神社の清掃をしている住民の姿が見られます。住民自らが自分たちの住まいである熊川宿の環境について、意識を持って生活しているのだと感じますし、見習わなくてはならないと思います。

旧熊川保育所裏にビオトープが整備され、虫の生育が進められています。熊川宿に虫が飛び交う日(夜)もそう遠くないのかなと心密かに楽しみにしています。

編集委員

西山稻荷神社
(にしやまいなり)

下ノ町から山の中腹まで登った所にあり、伏見稲荷大社より勧請したといわれ、創建は少なくとも江戸時代中期まで遡れます。商売繁盛の神様として信仰され、秋の大祭には「おひたき」の神事が行われてきました。現在は、近隣の住民有志により賑々と守り継がれています。